



JBCF

JAPAN BICYCLIST CLUB FEDERATION

一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟

2018年度事業活動方針

2017. 12. 9.

於：目黒自転車総合ビル

2018年度 JBCF事業活動方針発表会

■次 第

- | | | |
|--------------------------|-------------|---------------|
| 1. 開会の挨拶 | 13:30～13:35 | 理事長 斧 隆夫 |
| 2. 2018年度 事業方針、計画 | 13:35～13:50 | 理事長 斧 隆夫 |
| 3. 2018年度 Jプロツア-登録チームの発表 | 13:50～14:00 | JPT G.D. 丸田貴之 |
| 4. 2018年度 レースカレンダー-案発表 | 14:00～14:10 | JPT G.D. 丸田貴之 |
| 5. 2018年度 Jプロツア-広報活動案発表 | 14:10～14:20 | JPT G.D. 丸田貴之 |
| 6. 2019年 Jプロツア-加盟規定案発表 | 14:20～14:35 | 専務理事 廣瀬佳正 |
| 休 憩 | 14:35～14:45 | |
| 7. 2018年度 各チームプレゼンテーション | 14:45～15:45 | (1チーム5分間) |
| 8. 質疑応答 閉会挨拶 | 15:45～16:00 | |

JBCF 基本方針

継続
Keizoku

拡大
Kakudai

向上
Koujyou

**JPT<Japan Pro Tour>を日本トップカテゴリーの
最高峰ロードレースとして、その価値を高める**

それがプレステージを高め、東京オリンピックを目指すうねりが
ファンを創出、競技人口の拡大に繋がり
よってロードレースをメジャースポーツに近づける

2018年 JBCF活動方針

■ 連盟として目指すキーワード 実践

継続

拡大

向上

■ 連盟のあるべき姿・社会の公器である 信条

高潔

信用

信頼

■ 連盟の方向を示す・指標 進化

価値化

広報力

加速度

JBCF 半世紀の歩み

- 1966年6月 日本自転車工業会(現自転車協会)・自転車産業振興協会支援で
“第1回自転車業界親善ロードレース大会”が実車連の前身としてスタート
- 1967年3月 日本自転車工業会・企業が中心となり”**全日本実業団自転車競技連盟**”創立
- 1968年3月 **通産大臣**旗下賜 “第1回全日本実業団対抗ロードレース大会” 開催(現経産大臣旗)
- 1972年～ 実業団からオリンピック選手多数輩出、モントリオールで**長義一** 6位入賞。
その後毎大会選手派遣。
- 2001年 加盟チーム128チーム、加盟登録者数1122名、**初めて1000名を超える。**
- 2011年1月 従来の任意団体から“**一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟・JBCF**”となる。
連盟の基盤強化 連盟方針 “JPTの価値UP ” 目指しスタートする。
- 2011年3月 事務局スタート直後、東日本大震災で中止大会あったが代替、追加で完遂。
- 2011年 連盟法人化後、加盟登録者**数2000名を超える**、10年で倍増達成。
- 2012年～ コンチネンタルチーム、地域密着・貢献型チームの増加傾向
- 2016年 加盟登録者**2900名**をこえる、リオ五輪JBCF関連選手4名出場、
- 2017年 JBCFのJPT21チーム登録、8チームがUCI コンチネンタル登録し国際活動活発化。
JPTレースのTwo in One レースは10～開催、22レース(13会場)となる。
開催拡大・向上へ、公道レース、ステージレース等、UCIレース導入の布石
- 2017年12月 **創立50周年**、記念誌発刊、記念パーティを開催する。

2018年 JBCF活動方針

魅力ある連盟 (50周年記念の年・原点回帰)

競技で楽しく、見て愉快、目指すはJPT、世界を
メジャースポーツへの挑戦(魅せるレース、やる試合)

1. JPT価値を創造、向上させる

Jツアー制度ステップアップ、オリンピックまで秒読みに
JBCFならではの *Japanese Way*が独自の新時代を築く

2. 情報発信力がツアー向上を招く

メディアミックス・即応・頻度・各チームスポンサー獲得支援に(動画)

3. オーガナイザー 機能の充実(連盟本部・業務部の進化)

Web・IEの活用と各種コンテンツ駆使のサービス展開へ
持続可能な地球環境に配慮した推進

2018年 JBCF活動方針

魅力ある連盟 (50周年記念の年・原点回帰)

競技で楽しく、見て愉快、目指すはJPT、世界を
メジャースポーツへの挑戦(魅せるレース、やる試合)

1. JPT価値を創造、向上させる

Jツアー制度ステップアップ、オリンピックまで秒読みに
JBCFならではの *Japanese Way*が独自の新時代を築く

2. 情報発信力がツアー向上を招く

メディアミックス・即応・頻度・各チームスポンサー獲得支援に(動画)

3. オーガナイザー 機能の充実(連盟本部・業務部の進化)

Web・IEの活用と各種コンテンツ駆使のサービス展開へ
持続可能な地球環境に配慮した推進

2018年 JBCF活動方針

1. 魅力ある連盟へ(競技は楽しく、見て愉快、目指すはPRを世界へ)

JPT価値向上: 挑戦 *Japanese Way* でツアーを進化させる

JPT進化 ●JPT価値向上・2019年へJプロツアー進化プロジェクトへの開始

- 企業・地域・クラブ型チームの融合が独自の試合形態を生み実戦強化のチーム力
- 世界選、五輪出場条件UCIコンチネンタルチームに、**日本選手**のポイント獲得支援
- フルカテゴリー、Jr、U23、エリートが混走できる、**日本流のハイレベル・レース**とその強化

大会運営 ●大会開催基準推進で認定大会ブランド価値化で魅力・価値づけ

- Two In One 大会、日本ならではのレース最適化、**露出**、公道増加
- 競技役員のステップアップ(プロツアーに相応しい、らしさ、スキル・ブラッシュアップ)

レース運営 ●メリハリの利いたポイント配分QA(AAAA)レースの実績によるさらなる展開

- JBCF大会が**UCIレース**に進展とその関わり(開催地と連携、JBCF継続メリット)
- 安全優先運営**の徹底メディカル部会への尊重、競技運営委と連動
- 健全な連盟(A・ドーピング活動周知、**環境配慮**、気品ある行動)

自転車競技と地球環境との共生 (2011年度方針発表～)



オリンピックの歴史でもテーマの変遷

純粹アマスポーツ

文化(芸術)との融合

スポーツで持続可能な地球環境を

Environment → Sustainable

環境との共生 Bicycleレースで可能なこと

競技マナー向上: 補給・回収ゾーン設置, 自然回帰材料

あたりまえスポーツ環境へ“無煙”めざす

競技運営では: 五年後には“CO₂削減”レース運営エコ化

電動orハイブリッドのバイク、COMカー

競技外の活動: ペーパーレス、テレビ(PC)会議 等々

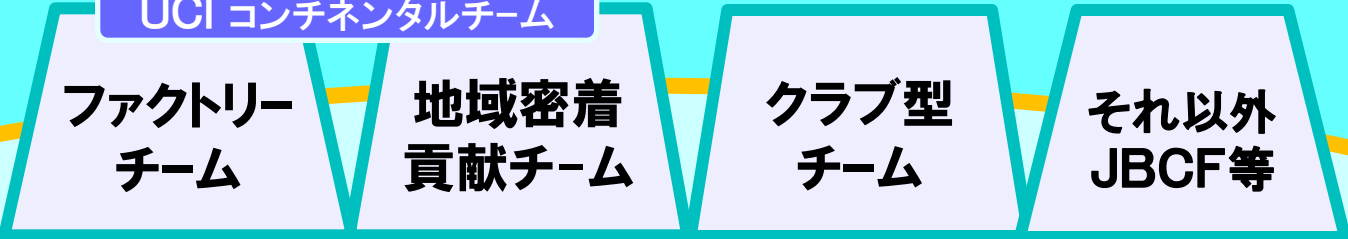
- できていない事
- できていること

2018年 JBCF 活動方針

JPT *Japanese Way* チーム集合体

Japan Pro Tour

UCI コンチネンタルチーム



Japanese Way 異質の融合がシナジーを生む



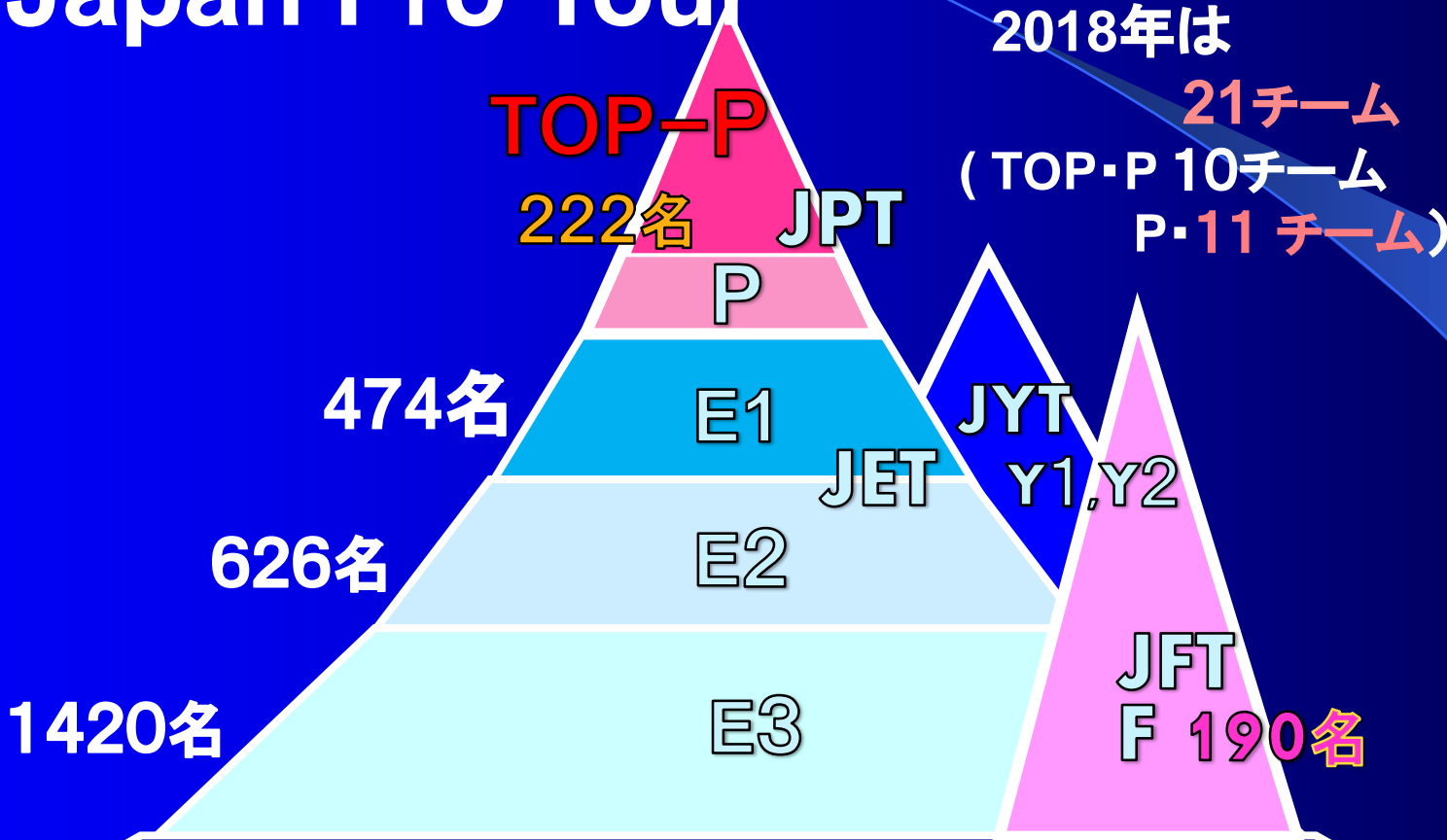
フルカテゴリーの中での実戦強化
JBCF50年の進化



2018年 JBCF 活動方針

JBCF クラス構成ピラミッド

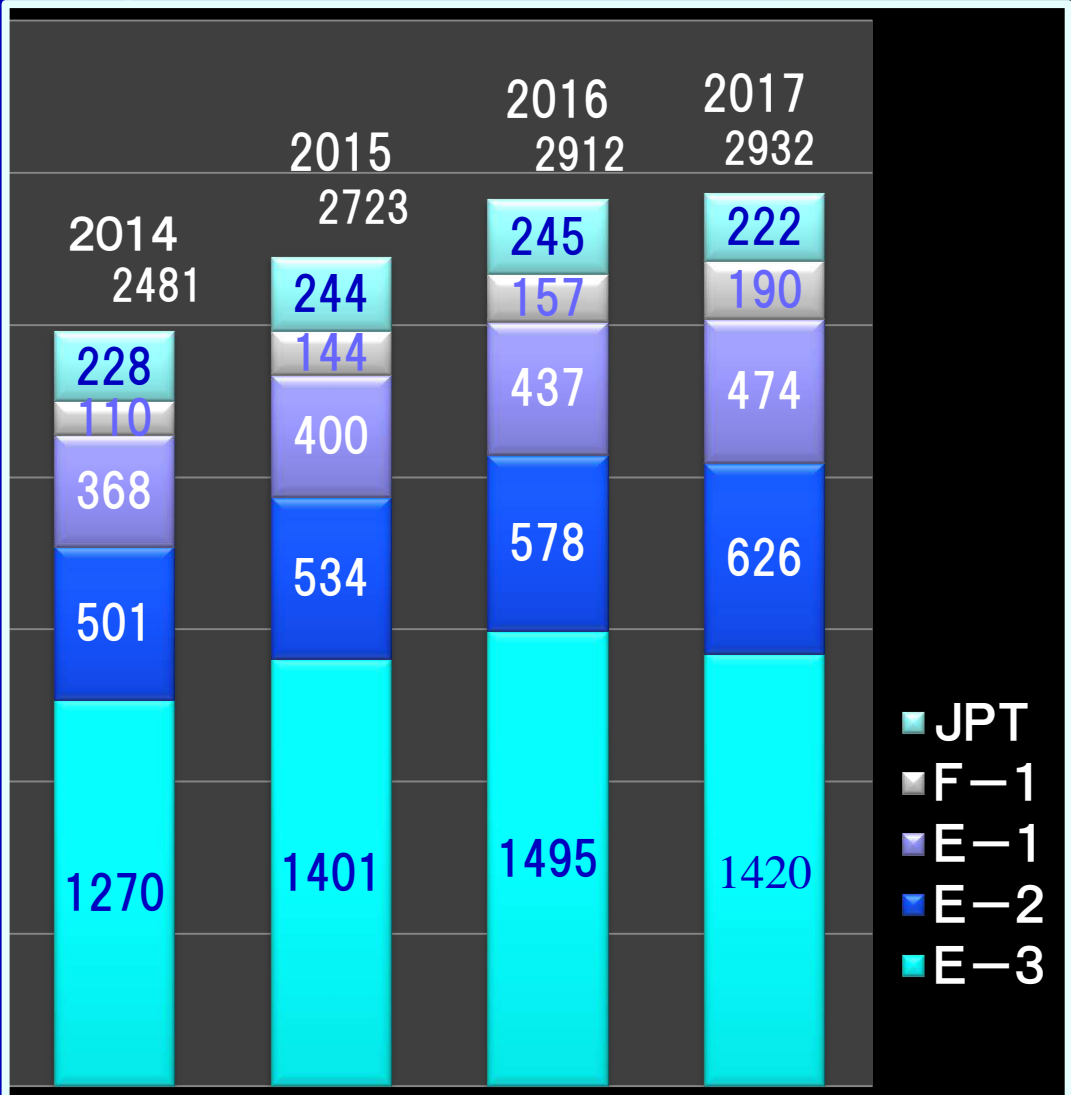
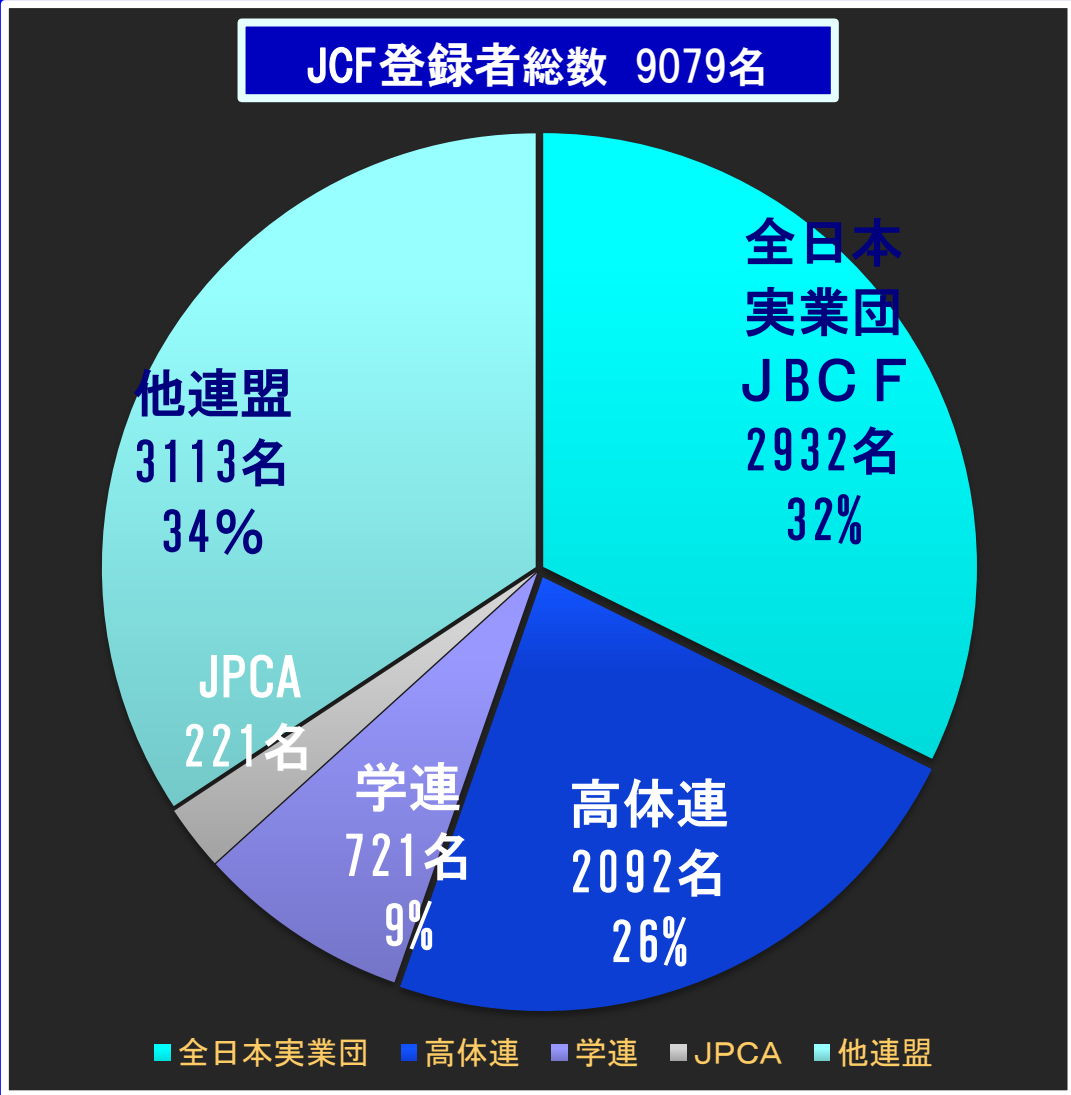
Japan Pro Tour



サイクルレースには登録当たり前、登録者数の拡大へ 2020年に10,000名を超える

2018年 JBCF活動方針

加盟登録者シェア & 年度推移2014~



2018年 JBCF活動方針

地方活性化への取り組み

2017年、地元自治体と協同した大会を数多く宇都宮市、那須塩原市(新)、那須市(新)、大田原市(新)、矢板市(新)、前橋市、石川町(補助対象)、鴨川市、小谷村、宮田村、熊野市、山口市、美祢市(新)、大分市、日田市>開催しました。

2018年も、おきなわかりゆしロード金武町、UCI おおいたサイクルロード、などで、地元自治体、地元競技連盟、地域活性の切り札として、価値共創にチャレンジしてゆきます。



地方活性化の切り札

エキサイティングスポーツ感動を提供



サイクリング
観光、グルメ、特産品
観戦ツアー、交流

- ・公正・安全なレース運営・情報発信
- ウェブコンテンツ拡充
- スポーツ専門チャンネル配信
- SNSでの事前告知やテキトライブス

2018年 JBCF活動方針

魅力ある連盟 (50周年記念の年・原点回帰)

競技で楽しく、見て愉快、目指すはJPT、世界を

メジャースポーツへの挑戦(魅せるレース、やる試合)

1. JPT価値を創造、向上させる

Jツアー制度ステップアップ、オリンピックまで秒読みに

JBCFならではの *Japanese Way* が独自の新時代を築く

2. 情報発信力がツアー向上を招く

メディアミックス・即応・頻度・各チームスポンサー獲得支援に(動画)

3. オーガナイザー 機能の充実(連盟本部・業務部の進化)

Web・IEの活用と各種コンテンツ駆使のサービス展開へ

持続可能な地球環境に配慮した推進

2. 情報発信力の充実が Jプロツアー の向上指標

広報強化:メディアへの露出(企画広報委員会の最重点課題)

露出アップはメディア環境変化に即応・順応(新分野展開加速・モバイル等)

- メディアミックス・頻度・効果検証(文字～動画)
- 各種動画配信競合時代への突入、活動に見合った選択に即応
- 海外からも注目・影響あり、JPT放映 U-Stream、情報をウォッチング
- 連盟HPの進化(ファン誘導の各サイト、レスポンス対応、信頼性アップ)

JPTゼネラル・ディレクターの活動、丸田ディレクター参画3年目

- G. D. が大会演出と露出のバランス、大会広報を率先し実践
- 広報に活用できる、大会運営仕様やスポンサー獲得の支援

2018年 JBCF活動方針

魅力ある連盟 (50周年記念の年・原点回帰)

競技で楽しく、見て愉快、目指すはJPT、世界を

メジャースポーツへの挑戦(魅せるレース、やる試合)

1. JPT価値を創造、向上させる

Jツアー制度ステップアップ、オリンピックまで秒読みに

JBCFならではの *Japanese Way* が独自の新時代を築く

2. 情報発信力がツアー向上を招く

メディアミックス・即応・頻度・各チームスポンサー獲得支援に(動画)

3. オーガナイザー 機能の充実(連盟本部・業務部の進化)

Web・IEの活用と各種コンテンツ駆使のサービス展開へ

持続可能な地球環境に配慮した推進

2018年 JBCF活動方針

3. レース運営・連盟主催者がやることの向上

レース内容の進化: *Japanese Way* のオリジナリティ

競技運営委員会 & メディカル部会とオーガナイザーの組織連動

- **安全優先**の運営配慮と選手達が担う安全の意識を高める
- JBCFのチームランキングがJCFランキングに反映される
- **UCIレースに移行**する大会とその関わり(開催地との連携強化)
- 海外メディアへ露出増、JPT放映 U-Stream、企画広報委と情報共有必須

連盟本部・業務部

- 連盟HP活用展開 & 進化(情報伝達、誘導、レスポンス、スピード化)
- 一気通貫の業務運用を目指す、ルーチンWのマニュアル化、品質の向上
- ユーザー(選手・チーム)への満足度サービスを心掛ける。

2018年 JBCF活動方針

先進IOTでJBCFの情報ネットワーク環境

戦略垂直統合システム・IoT

選手情報処理

選手登録&加盟・登記
チーム登録

JCF登録システム
DB

UCI申請

他の全国組織連盟
高体連登録チーム
学連登録チーム
プロサイクリスト協会

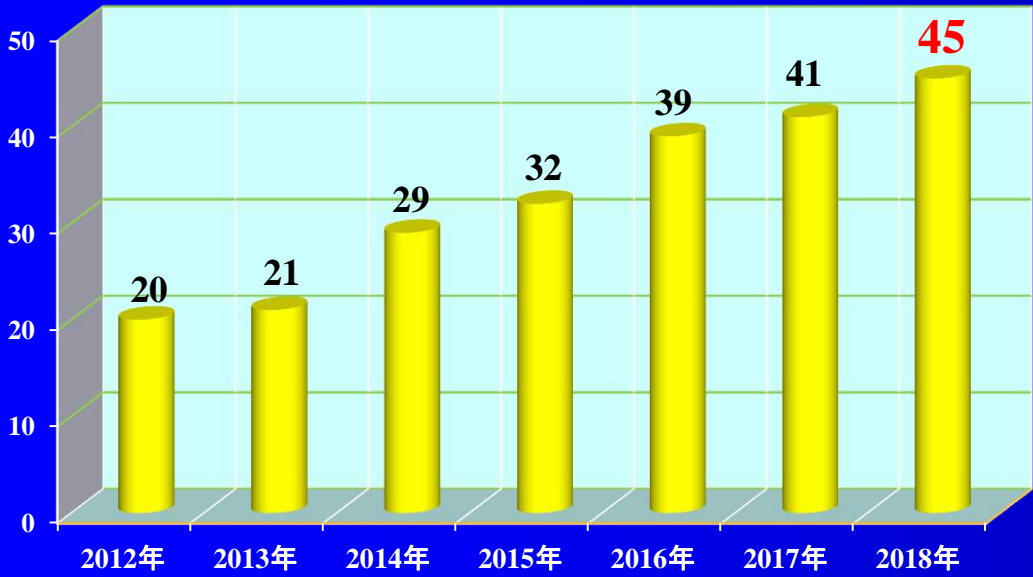
JBCFのマルチDB
加盟登録
登録・参加入金システム
エントリーシステム
スタートリスト
計測データ
リザルト・ランキング

ファクトリチーム
地域密着チーム
ショップチーム
フレンドチーム

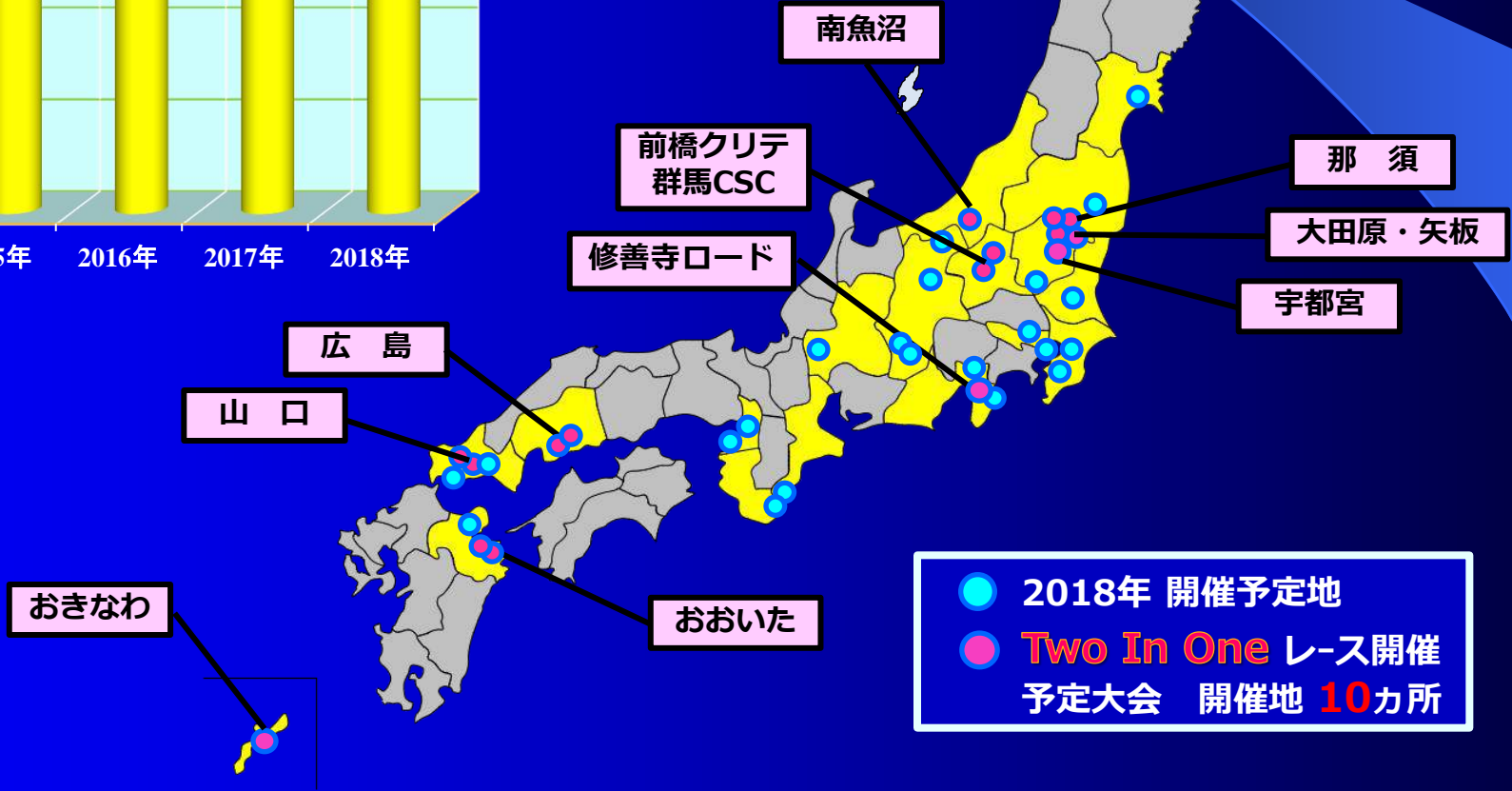
普及大会の選手JBCF登録
臨時登録の登録推進・ID付与しDB化する、将来正規登録を容易に

2018年 JBCF 活動方針

2018年開催地予定地 45カ所



各地でのレース開催拡大
Two In One レースを目指して



2018年 JBCF活動方針

JPTの登録は、JPT年間ランキング上位15チームにシード権が与えられる。

2017年のシード権チームと非シードチームのJPT参入希望チームから総チーム数は21チームを選出する。なおエリートでTOP-EとしてJPTチーム登録を希望するチームにはシード権付与

2017年10月14日(土) 2017年JPT下命チーム登録要件発表(おおいたフェスにて)

ランキング上位15チーム、非シードチーム受付開始
(11月4日幕張クリテリウムの結果も加味してよい)

10月27日(金) チーム登録申請締め切り

11月24日(木) 選考会議(JBCF理事会)

12月 9日(土) 2018年連盟方針発表会(シード&選考チーム発表)

場所: 自転車総合ビル

時間: 13:30~16:00 (メディア関係者・チーム関係者チーム紹介とチームプレゼン)

12月16日(土) JBCF 50周年記念パーティ(目黒:雅叙園)

2018年 1月 初旬 F,E,Y加盟登録受付開始

~1月25日(木) 加盟登録締め切り

2月24日(土) Jプロツアー第1戦開催(第1回 JBCF おきなわかりゆしロードレース Day-1)

本日はありがとうございました
今後とも、より一層の
ご支援よろしくお願いいたします

JBCF

一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟
理事長 斧 隆夫